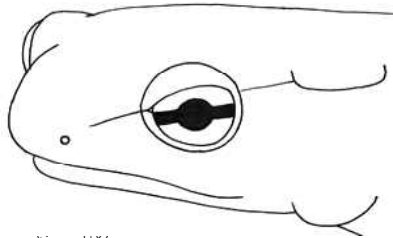


イモリを飼おう

やまがたちゅうおうこうどうがっこうせいぶつ ぶ
山形中央高等学校生物部

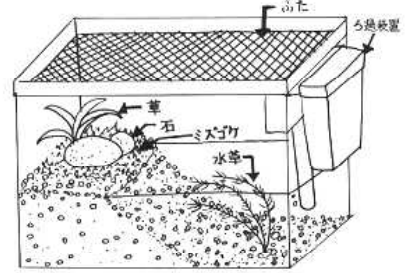


1 イモリとは

山地の水のきれいな水田や小川、池など流れが緩やかな水中で生活しています。昔は日本中で見ることができました。大変飼育しやすい生き物で、エサはオタマジャクシやミズ、昆虫などです。このため農薬がまかれると、その毒と、エサになる生き物がいなくなるので、イモリはいなくなります。逆に田んぼや池にイモリがいれば、そこは大変きれいである(農薬の毒が少ない)とわかるのです。

2 飼う方

一般的には右図のように陸地を作った水槽で飼育しますが、展示しているように、多めの水草と水だけでも飼育できます。但し、フタは必ず必要。脱走の名人で、垂直のガラスも登り逃げます。



3 エサとエサのやり方

オタマジャクシやミズがいなくても、市販のカメやザリガニの餌のように水に沈むエサで飼育できます。多量でなければ、水草が排泄物を浄化するため、濁らなければひんぱんに水替えることもありません。乾燥イトミミズがあったら、黒プラスチックのピンセットに夾んで目の前で静かに揺らすとすごい勢いで食いつきます。尚、動物性のエサだと水が濁るので、別容器に入れて餌をあげるようにします。ともかく死因の第一はエサのやり過ぎによる水の腐敗です。

4 水質、水温について

水は汚れてくる前にこまめに換えます。イモリは高温に弱く、28℃以上になると弱ってきます。夏場は涼しい場所に置く必要があります。冬の寒さには強く、寒くなると動きは鈍くなりますが凍らなければ大丈夫です。この時は餌はほとんど与えません。

5 イモリの毒について

イモリの毒はフグと同じテトロドトキシンです。イモリは自分でこれを作れず、雑菌やプランクトンの毒素を溜め込んで使います。このため、長期間飼育したイモリはほとんど毒を持たなくなります。とはいえ、イモリをさわった手で目をこすったりすると、別の雑菌で目が腫れることがあるので、注意してください。

6 イモリのお腹の赤と黒の模様

警告色と言います。「私は毒を持っていますよ！食べたらあぶないよ！しっかり覚えてね!!!」と、あぶないと感じてもらおう効果があるそうです。その割にタヌキやサギなんかの鳥に躍り食いされていたりします。

7 惚れ薬？

繁殖期になるとオスの尾は青紫色の美しい婚姻色を発色し、おしりの腹腺から「ソデプリン」というフェロモンを出し情熱的にメスを誘います。フェロモンはにおいによる雄のラブコールです。もちろんイモリの雌に効きますが、人間には効きません。ソデプリン：額田の大君という天皇の恋の短歌から命名されました。

8 どこにいるの？

もし、お酒用の米を作っている田んぼがあればほぼ確実です。天童・東根・上山の小さな谷川筋の田んぼで見かけますが、まだ山形市でもイモリはいます。実は沼の辺の奥にはなんと、モリアオガエルもいたりして、イモリはこのオタマジャクシを狙って食べるので、少し困ったちゃんでもあります。でもその場所は年々小さくなっています。まだ間に合います。山形のきれいな自然をいっしょに守りましょう。